

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム・ハッピー桜 染井		
所在地	岐阜県大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&ji_gvovsOcd=2192100176-00&PrEfCd=21&Versi onOcd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成28年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設6年目です。豊かな田園地帯の中にあり、近くには大型ショッピングセンター、高齢者福祉施設、学校、歯医者、病院、大垣インターがあり、環境に恵まれています。地域の方達とは、気さくに声をかけていただいたり、お声をかけさせて頂いています。頑丈な建物構造となっており、非常時の備蓄も備えており、有事の際には避難場所とすることも視野に入れています。メリハリのある生活を送って頂くために、公文の学習療法(有料)を取り入れられたり、漢字、計算問題、パズル、塗りえなどに取り組んで頂いています。ホームは2階にありますがデッキが広く、陽を浴びながら散歩をされたり、洗濯物を干したり、ご利用者様は生き生きとして動かれています。デッキには4季折々の植物を育てていますが、特に野菜は、採れたてを調理するなど楽しんでます。ご高齢の方が多く、看取りを希望されるご家族や、病院への受診がご家族の都合でできない場合、できる限り対応をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりを尊重した支援を基本とし、認知症研修を通して、認知症から現れる行動を理解し、利用者に寄り添った支援に努めている。医療面では、日常的に隣接クリニックの看護師が訪問する等、密接な連携が取れている。開設6年目を迎えて、利用者も高齢化してきたことから、重度化や終末期支援に向けた支援体制を整えている。地域との連携では、医師や看護師等の医療関係者と福祉関係者が一堂に会する機会として地域包括支援センター主催の事業者連絡会や医師会主催の多種職連携事業等に参加している。また地域の方々や学校等との交流をもち、利用者がその交流を楽しむことができている。地域の避難場所となっている建物は、火災を想定しオール電化とする他、災害対策として低地という土地柄に合わせ、耐震、免震構造とすることで地盤沈下、揺れに対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議では、認知症研修を取り入れ理念の確認を行っている。毎朝の申し送り時の最後には、理念を出勤者全員で唱和をしている。	法人理念のほか、独自に事業所理念を作成している。理念は掲示に加え、申し送り時に唱和し、カンファレンス等でも話し合っている。また理念を職員間で共有し実践につなげるよう努めている。職員は毎月の会議で認知症研修に参加し、利用者一人ひとりの理解を深め、理念を確認し、ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの中学校の職場体験は積極的に受け入れており、毎年多くの学生さんが学びに来て下さる。地元の保育園さんとは交流があり、運動会には毎年参加をさせていただいている。	職員は、中学生等に認知症についての理解促進のため劇を行ったりする等、利用者との交流が深まるよう取り組んでいる。校区の中学校、高校、保育園と交流したり、また、いきいきサロンにも参加する等地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、パワーポイントで認知症ミニ勉強会をさせていただいており、地元民生委員さんからはわかりやすいとの高評価を頂いている。地域のサロンでの上映を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活をスライドにて報告させて頂いており、利用者家族から好評価を得ている。また、本年よりミニ認知症勉強会をパワーポイントを使って行っている。意見交換会を議題に入れ一つでも多くの声を聞くように工夫をしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動報告、ミニ講座、その他(防災訓練、外部評価結果報告等)、意見交換等を行う等してサービスの質の向上に努めている。活動報告はスライドを使用し、利用者の日常生活をわかりやすく報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的開催される事業者連絡会や大垣医師会開催の他職種連携事業に出席し、施設の現状や、悩み、問題事項など意見を述べさせていただいている。疑問点は高齢福祉課に問い合わせることになっている。	市担当課とは疑問点があった時や医療機関との連携の際に困った時等に連絡を取り、事業所の実情を伝えながら対応してもらっている。また医師会主催による多職種連携事業により、医療及び福祉関係者との様々な情報交換や連携強化ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	落下防止としてベッドの4点柵をしがちである。無意識のうちに身体拘束を行わないよう、定期的に研修を行っている。事故のリスクが伴う場合、安易な対策を取らず、ご本人の身体の自由を奪わぬよう検討している。施錠はせず、デッキには自由に入出入りされている。	カンファレンスで定期的に身体拘束をしないケアの研修を行っている。利用時、ミトンをしていた利用者に対し、身体拘束をしないケアに関する委員会等で、リスク、本人の思い等の話し合いを持ち、ケア方法を検討した結果、ミトンを外す支援ができたとのことである。原則、利用者の抱える思いや理由を探り、身体拘束をしないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かを知ることが大切だと考えている。認知症状の方への制止語は虐待に繋がるケースがある。呼び方でも虐待の場合がある。身体拘束と同様、無意識のうちに虐待を行わないよう研修を通して啓蒙している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する方はみえないが、今後家族関係の多様化に伴い、ケースが発生するものと思われる。本年度は研修は受けていないが、今後学ぶ機会があれば研修に参加をしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談を受け入所が決定するまでにご家族の不安・サービスの内容・料金など納得いただけるまで説明を行い、申し込みを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の方々のお声を聞き、投函する仕組みがある。毎月施設長会議で全館の声を把握している。ホーム入口にも声情報の投函箱を設けお声を聞いている。特に苦情は貴重なご意見として全員共有している。	意見を聴取するため、意見箱を設置しアンケートを実施したり、日常的なケアの場面や家族の面会時に得られた意見等を「お客様の声情報」として、積極的に意見や要望を把握し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファ時に職員の意見や考えを記録し、上席者に報告をしている。また、お客様声情報は職員の声も反映させるツールとして活用をしている。食事は職員の本音を聞く機会として年1～2回ほど開催している。	管理者は、カンファレンスで提案された職員の意見を管理層に回覧し、決裁を仰ぎ、運営に反映させている。また職員との食事が意見を聞く機会となっており、積極的に職員一人ひとりの意見を聞き、運営に反映させている。	管理者は日頃、職員の意見を聞くよう努めているが、今後、定期的な個人面談を実施し、職員一人ひとりの意見、提案を聞く機会を充実させ、より現場の実情を把握すると共に運営に反映させる取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報奨金制度があり資格を有した際には金一封出る。自己評価を実施し意欲ややりがいを把握し研修の意欲がある職員には研修費を会社負担として外部研修に参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣の年間計画は、経験年数や実績を考慮している。希望する研修があればそれに添うようにしている。研修を受けた者は部署内において講師となり、研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市サービス事業者連絡会の会員となっており、定期的な会議に出席、研修を行っている。また、地域密着型施設交流会には毎回出席し、各事業所さんとの情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や主治医からの情報を参考に標準語を意識し、声のトーンにも気を配りながら安心出来る環境を作り、傾聴を基本としてお話を伺うようにしている。個性的な利用者がみえるため十分な配慮はしているつもりである。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活や認知症などの疾患で困っておられたことをお聞きしている。質問を工夫することでご家族との関係を把握し支援方法を考えている。その際、信頼関係を築くために深く突っ込まないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、本人、家族から出た言葉を書き留め、真意を見出し、声掛を大切にしている。面会時は丁寧な対応を心掛けニーズに対応したサービスを提案している。介護タクシー、往診歯科診療など		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の手となり、軽作業を手伝って頂いている。洗濯関係や、毎食時の配膳など大変助かっている。時には見守りして下さる。職員と共に色々な会話を交わしながら自宅での生活と変わらないような日々を工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご様子を報告をさせて頂くと同時に家族関係の大切さも話させて頂いている。ご家族と喫茶店や食事に出られたり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはお喋りし易い環境設定を心がけている。居室であったり皆さんがいるフロアであったり、楽しく昔話に花が咲いている時、さりげなく現在の様子を提供させて頂いている。楽しい思い出して頂くことで再訪問して頂いている。	家族や近所の友人の来訪の際には、居室にお連れし、お茶を準備する等、利用者が大切にしてくれた人と楽しく過ごしていただけるよう配慮し、関係保持の継続を図っている。また利用者の自宅近くの紅葉を見に行く等馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お1人の人権を大切にさせて頂き席の工夫を常に行っている。個性的な性格や認知症状の違いを把握し淋しくならないよう常に職員と話し合い、楽しく交流して頂けるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされたご家族に夏祭りのご案内を出させていただき、遊びに来られたり、交流が継続しているご家族がある。深刻なご相談はないが逆に当ホームへのアドバイスを頂き、ホームのより良い運営に取り入れさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや毎日の申し送り時、気になる利用者の声を聞き、個別対応をさせて頂いている。デッキにお誘いをし話しを伺ったり、顔色が優れなければ体調面以外にも精神面をアセスメントしている。	入浴等の個別ケアを通じた、日常的な関わりの中で利用者一人ひとりの意向の把握に努めている。職員は利用者に安心してもらえるようゆったり傾聴し、利用者の行動には根拠があるとの考えのもと、利用者の思いや意向を探り、寄り添ったケアができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	声掛を多くし、同調、傾聴を繰り返し今迄の生活を把握しようとしている。また、ご家族からホームでの様子を報告するとともに、今迄の生活の様子をお尋ねしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子を、介護記録、申し送りに記録をしご本人の生活状況を把握し、また、レクなどを通して隠れた力を見出し、スタッフ全員で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族に報告と支援方法についてご相談をし、カンファ時にご本人、ご家族の意向を充分配慮しながら支援方法を検討し、計画作成をしている。	介護計画は、カンファレンス等で協議する他、利用者や家族の意向を踏まえて作成している。また作成シートはセンター方式を用い、利用者の理解をより深めた計画書となっている。更に定期的にモニタリングや評価を実施し、現状に即した支援となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、申し送りノートに記録をし、毎朝の申し送り時に支援について話し合ったり、アセスメントシートを活用しより良い支援策を模索している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時には報告と共にご本人様から寄せられた言動の意味などをご家族に尋ねながらプライバシーに配慮しつつ聴き出し、支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大垣市の交流会や広報などで新しい資源を見出し外出や外食を楽しんで頂けるよう支援をしている。大垣祭りや、喫茶店は大変楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるが強制はしていない。馴染みのかかりつけ医に定期受診をされる際は情報提供をさせていただきドクターの指示を受けている。大垣市では医師会と事業所との連携がある為大変助かっている。	本人や家族が希望でかかりつけ医を選択できる。基本的に家族同行での通院であるが、場合によっては職員が付き添っている。受診の際、利用者の情報提供書を持参し、受診後の把握もできている。また定期的な協力医による往診や看護師による訪問が行われている等医療との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコール体制を取っている。急変時、夜間帯の連絡は可能で指示を受け、迅速な対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大垣市民病院入院時には指定の情報提供書を作成し、適切な治療ができるよう協力をさせていただいている。面会や、ご家族との連絡を密にさせて頂き早期退院に向け退院後の療養について、かかりつけ医相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において終末医療についての確認を行っている。看取りについては条件が合えば体制は整えており、また、看取りの実績もあることから丁寧に説明をさせて頂いている。	入居の際に、重度化した場合や終末期における可能な支援を説明し、利用者や家族の意向を確認している。実際に重度化した場合は、利用者と家族の意向をその都度確認し、協力医、職員が連携を取り、支援体制を整えている。看取りについての指針やマニュアルを作成し、職員間で対応しうる支援を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の救急訓練時消防署員によるAED講習や心肺蘇生法を学び、実践力をつけている。が、まだ不安がある為、今後研修に取り入れていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	推進会議において地域の協力体制を確認させて頂いている。水害や火災においては、避難経路の確認を定期的に行い、有事に備えている。避難階段には常に布団を備え突然の災害に対応ができるよう確認を行っている。	日中、夜間を想定した訓練を同建物内のデイサービスと一緒にやっている。また隣接の同法人施設や近隣の福祉施設と災害時の協定を結んでいる。その他、推進会議での意見や消防署からの助言を活かし、災害対策の改善や協力体制の構築に努めている。	災害に備え、様々な避難方法により訓練を実施している。今後、デッキへの避難誘導を導入するため、有事の際に職員が避難方法を巡って混乱しないよう避難訓練の更なる充実化に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛への配慮は常に指導を行っている。無意識に不適切な発言が見られた場合、その場で注意をしている。排泄の声掛等、配慮が必要な声掛け時は周りの方に感づかれない方法を工夫している。	利用者一人ひとりを人生の先輩である年長者として敬意を表した言葉づかいをするよう心がけている。また管理者は、新人職員に対し、言葉がけの大切さを説き、ケアの充実に努めている。排泄、入浴時のケア等にも、本人の誇りやプライバシーを損ねない言葉がけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしましょうか」「どちらにしましょうか」等、声掛に工夫をしご本人の意向に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の発せられた言葉を大切に、ご本人様の意向に沿えるよう情報を共有している。23時頃であっても夜勤者とお茶を飲みながらお話をしたり、散歩をされたい方は自由に散歩をされている。レクリエーションへの参加も強制はしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は毎日同じにならないよう会話を交わしながら変えさせて頂き、ブラシをお渡し整髪をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけの一部を共に行い、なるべく会話を交わすよう心がけている。年に数回は、利用者と共に食事作りをし、楽しみな行事となっている。食事介助が必要な方とは、常に声掛を行っている。	職員は利用者の中で可能な方には盛り付けや片付け、トレー拭き等お願いしながら一緒に食事づくりを行っている。食事の席の組み合わせを工夫する等利用者の食事環境に配慮している。2階デッキではキュウリやピーマン等の野菜作りをする等、食事への関心を高める工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と体重は常に把握を行い、身体状況を観察している。水補時に必要な方にはとろみをつけたり、咀嚼状況を見て食事形態を変更する等、無理なく摂取できる努力を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛や介助により全員に口腔ケアを実施している。歯痛の訴えには訪問歯科医に連絡を取り診察やケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が弱い方も日中はリハビリパンツでトイレで排泄をして頂いている。自立の方も排泄状況を常にチェックをしており、声掛をさせていただき、尿取りパット使用の減量を意識している。	利用者ごとに排泄チェック表を作成し、排泄パターンによりアセスメントし、トイレで排泄できるよう自立に向けた支援をしている。利用者の身体状況(立位困難や便秘・尿意が不明瞭等)に応じて医師と相談し、時間を見計らって誘導したり、おむつを検討する等し、利用者に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝排便状況を確認し、看護職員に報告、指示を受けている。車椅子の方でなるべく立位を取っていただいたり、水分摂取を増やすことで下剤の使用がなくなり自力排便に繋がった方が見える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみにされている方、苦手な方、熱い湯を好まれたり長湯を好まれる方など、体調を見させて頂きながら、一般浴や、安全に楽しめる機械浴で利用者様に合わせた入浴を行っている。	好みの温度に合わせた週2回の入浴支援を行っている。入浴を拒まれる利用者には思いを傾聴して気分転換を図っていただき、気分よく入浴できるよう支援している。入浴を拒否されていた利用者が、部屋での清拭やシャワー浴等で支援しながら根気に利用者の気持ちに寄り添い、翌月には入浴できるようになった事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠を強制せず、テレビや会話を楽しんで頂き、その方に合わせて夕食後を過ごして頂いている。夜間帯にお茶を出させていただいたり、軽なお菓子を出す場合もある。2時間毎に巡視を行っているが安眠を第一に考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の怖さは職員一人一人が体験しており、誤薬を防ぐため服薬時には数回確認を行っている。その内容について、薬剤師や医療関係者から聴いており、症状に変化があった場合すぐ担当医院に連絡をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活にするため、学習療法に取り組まれられたり、漢字や計算などのプリント物を提供し、持っている力を確認させていただいたり外出や、外気浴で気分転換を図っている。デッキが広く様々な植物が楽しませてくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク当番があり毎月外出やレクの行事を計画している。外出時も利用者様の縁のある地域や場所を選ぶようにしている。ご家族がご自宅やご実家にお連れされ、法事などの家族行事や観光に行かれる方が見える。	外出については、法人全体のレクリエーション委員や各施設のレク当番で定期的な外出計画を作成している。日常的な関わりの中で利用者の希望をくみ取り、外食やドライブに出かけたりしている。また日常的には近隣を散歩し、春には土筆取り等、戸外の散歩を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は預らせて頂いているが、面会時におこずかいを渡される家族がおられ、家族の気持ちを尊重している。馴染みの財布にお金が入っていると安心されるようである。館内の自動販売機で飲み物を購入される方が見える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、暑中見舞いなど馴染みの方に出して頂くようはがきをお渡ししている。達筆で書かれる方や書けないと言われお手伝いをさせて頂く方が見える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るすぎない柔らかな照明を用いている。広くはないが食堂とリビングを兼ねたフロアで穏やかに過ごされている。トイレはご利用者の目に入らぬ位置にある。	共用フロアには、花や塗り絵、季節感のある作品、行事の写真等が飾られ、家庭的な雰囲気が演出されている。所々にソファが置かれゆっくり休めるよう配慮している。また2階の広いデッキには、ベンチが置かれ、自由に出入りでき、四季折々の景色やプランターの花や野菜の成長を楽しんだり、利用者同士がおしゃべりできる居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いフロアではあるが席に工夫をし個別で落ち着いて頂ける工夫をしている。ソファを置き、他者と離れて過ごしていただいている。各テーブルは、島のように個々離しており、お互いが落ち着いて頂けるよう常に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や作品、手紙などを掲示させて頂いている。寝具など馴染みの物を依頼している。	家族には、特に布団など利用者の使い慣れたものを持ってきてもらうように伝えており、馴染みの家具や小物、家族写真等が持ち込まれている。利用者が居心地良く、ゆったり落ち着いて過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所には記銘をし、トイレは大きな字で張り紙をしている。歯磨きはご自身で収納までされる方も見える。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム・ハッピー桜 八重		
所在地	岐阜県大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&lgvsoCd=2192100176-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成28年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議では、認知症研修を取り入れ理念の確認を行っている。毎朝の申し送り時の最後には、理念を出勤者全員で唱和をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの中学校の職場体験は積極的に受け入れており、毎年多くの学生さんが学びに来て下さる。地元の保育園さんとは交流があり、運動会には毎年参加をさせていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、パワーポイントで認知症ミニ勉強会をさせていただいており、地元民生委員さんからはわかりやすいとの高評価を頂いている。地域のサロンでの上映を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活をスライドにて報告させて頂いており、利用者家族から好評価を得ている。また、本年よりミニ認知症勉強会をパワーポイントを使って行っている。意見交換会を議題に入れ一つでも多くの声を聞くように工夫をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的で開催される事業者連絡会や大垣医師会開催の他職種連携事業に出席をし、施設の現状や、悩み、問題事項など意見を述べさせていただいている。疑問点は高齢福祉課に問い合わせることにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	落下防止としてベッドの4点柵をしがちである。無意識のうちに身体拘束を行わないよう、定期的に研修を行っている。事故のリスクが伴う場合、安易な対策を取らず、ご本人の身体の自由を奪わぬよう検討している。施錠はせず、デッキには自由に入出入りされている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かを知ることが大切だと考えている。認知症状の方への制止語は虐待に繋がるケースがある。呼び方でも虐待の場合がある。身体拘束と同様、無意識のうちに虐待を行わないよう研修を通して啓蒙している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する方はみえないが、今後家族関係の多様化に伴い、ケースが発生するものと思われる。本年度は研修は受けていないが、今後学ぶ機会があれば研修に参加をしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談を受け入所が決定するまでにご家族の不安・サービスの内容・料金など納得いただけるまで説明を行い、申し込みを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の方々のお声を聞き、投函する仕組みがある。毎月施設長会議で全館の声を把握している。ホーム入口にも声情報の投函箱を設けお声を聞いている。特に苦情は貴重なご意見として全員共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファ時に職員の意見や考えを記録し、上席者に報告をしている。また、お客様声情報は職員の声も反映させるツールとして活用をしている。食事は職員の本音を聞く機会として年1～2回ほど開催している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報奨金制度があり資格を有した際には金一封出る。自己評価を実施し意欲ややりがいを把握し研修の意欲がある職員には研修費を会社負担として外部研修に参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣の年間計画は、経験年数や実績を考慮している。希望する研修があればそれに添うようにしている。研修を受けた者は部署内において講師となり、研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市サービス事業者連絡会の会員となっており、定期的な会議に出席、研修を行っている。また、地域密着型施設交流会には毎回出席し、各事業所さんとの情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や主治医からの情報を参考に標準語を意識し、声のトーンにも気を配りながら安心出来る環境を作り、傾聴を基本としてお話を伺うようにしている。個性的な利用者がみえるため十分な配慮はしているつもりである。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活や認知症などの疾患で困っておられたことをお聞きしている。質問を工夫することでご家族との関係を把握し支援方法を考えている。その際、信頼関係を築くために深く突っ込まないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、本人、家族から出た言葉を書き留め、真意を見出し、声掛けを大切にしている。面会時は丁寧な対応を心掛けニーズに対応したサービスを提案している。介護タクシー、往診歯科診療など		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の手となり、軽作業を手伝って頂いている。洗濯関係や、毎食時の配膳など大変助かっている。時には見守りして下さる。職員と共に色々な会話を交わしながら自宅での生活と変わらないような日々を工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご様子を報告をさせて頂くと同時に家族関係の大切さも話させて頂いている。ご家族と喫茶店や食事に出られたり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはお喋りし易い環境設定を心がけている。居室であったり皆さんがいるフロアであったり、楽しく昔話に花が咲いている時、さりげなく現在の様子を提供させて頂いている。楽しい思いをして頂くことで再訪問して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お1人の人権を大切にさせて頂き席の工夫を常に行っている。個性的な性格や認知症状の違いを把握し淋しくならないよう常に職員と話し合い、楽しく交流して頂けるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされたご家族に夏祭りのご案内を出させていただいたり、遊びに来られたり、交流が継続しているご家族がある。深刻なご相談はないが逆に当ホームへのアドバイスを頂き、ホームのより良い運営に取り入れさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや毎日の申し送り時、気になる利用者の声を聞き、個別対応をさせて頂いている。デッキにお誘いをして話しを伺ったり、顔色が優れなければ体調面以外にも精神面をアセスメントしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	声掛を多くし、同調、傾聴を繰り返し今迄の生活を把握しようとしている。また、ご家族からホームでの様子を報告するとともに、今迄の生活の様子をお尋ねしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子を、介護記録、申し送りに記録をしご本人の生活状況を把握し、また、レクなどを通して隠れた力を見出し、スタッフ全員で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族に報告と支援方法についてご相談をし、カンファ時にご本人、ご家族の意向を充分配慮をしながら支援方法を検討し、計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、申し送りノートに記録をし、毎朝の申し送り時に支援について話し合ったり、アセスメントシートをかつよう		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時には報告と共にご本人様から寄せられた言動の意味などをご家族に尋ねながらプライバシーに配慮しつつ聴き出し、支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大垣市の交流会や広報などで新しい資源を見出し外出や外食を楽しんで頂けるよう支援をしている。大垣祭りや、喫茶店は大変楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるが強制はしていない。馴染みのかかりつけ医に定期受診をされる際は情報提供をさせていただきドクターの指示を受けている。大垣市では医師会と事業所との連携がある為大変助かっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコール体制を取っている。急変時、夜間帯の連絡は可能で指示を受け、迅速な対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大垣市民病院入院時には指定の情報提供書を作成し、適切な治療ができるよう協力をさせていただいている。面会や、ご家族との連絡を密にさせて頂き早期退院に向け退院後の療養について、かかりつけ医相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において終末医療についての確認を行っている。看取り二つについて条件が合えば体制は整えており、また、看取りの実績もあることから丁寧に説明をさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の救急訓練時消防署員によるAED講習や心肺蘇生法を学び、実践力をつけている。が、まだ不安がある為、今後研修に取り入れていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	推進会議において地域の協力体制を確認させて頂いている。水害や火災においては、避難経路の確認を定期的に行い、有事に備えている。避難階段には常に布団を備え突然の災害に対応ができるよう確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛への配慮は常に指導を行っている。無意識に不適切な発言が見られた場合、その場で注意をしている。排泄の声掛等、配慮が必要な声掛け時は周りの方に感づかれない方法を工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしましょうか」「どちらにしましょうか」等、声掛に工夫をしご本人の意向に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の発せられた言葉を大切に、ご本人様の意向に沿えるよう情報を共有している。23時頃であっても夜勤者とお茶を飲みながらお話をしたり、散歩をされたい方は自由に散歩をされている。レクレーションへの参加も強制はしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は毎日同じにならないよう会話を交わしながら変えさせて頂き、ブラシをお渡し整髪をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけの一部を共に行い、なるべく会話を交わすよう心がけている。年に数回は、利用者と共に食事作りをし、楽しみな行事となっている。食事介助が必要な方とは、常に声掛を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と体重は常に把握を行い、身体状況を観察している。水補時に必要な方にはとろみをつけたり、咀嚼状況を見て食事形態を変更する等、無理なく摂取できる努力を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛や介助により全員に口腔ケアを実施している。歯痛の訴えには訪問歯科医に連絡を取り診察やケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が弱い方も日中はリハビリパンツでトイレで排泄をして頂いている。自立の方も排泄状況を常にチェックをしており、声掛をさせていただき、尿取りパット使用の減量を意識している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝排便状況を確認し、看護職員に報告、指示を受けている。車椅子の方でなるべく立位を取っていただいたり、水分摂取を増やすことで下剤の使用がなくなり自力排便に繋がった方が見える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみにされている方、苦手な方、熱い湯を好まれたり長湯を好まれる方など、体調を見させて頂きながら、一般浴や、安全に楽しめる機械浴で利用者様に合わせた入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠を強制せず、テレビや会話を楽しんで頂き、その方に合わせて夕食後を過ごして頂いている。夜間帯にお茶を出させていただいたり、軽なお菓子を出す場合もある。2時間毎に巡視を行っているが安眠を第一に考慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の怖さは職員一人一人が体験しており、誤薬を防ぐため服薬時には数回確認を行っている。その内容について、薬剤師や医療関係者から聴いており、症状に変化があった場合すぐ担当医院に連絡をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活にするため、漢字や計算などのプリント物を提供し、持っている力を確認させていただいたり外出や、外気浴で気分転換を図っている。デッキが広く様々な植物が楽しませてくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク当番があり毎月外出やレクの行事を計画している。外出時も利用者様の縁のある地域や場所を選ぶようにしている。ご家族がご自宅やご実家にお連れされ、法事などの家族行事や観光に行かれる方が見える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は預らせて頂いているが、面会時におこずかいを渡される家族がおられ、家族の気持ちを尊重している。馴染みの財布にお金が入っていると安心されるようである。館内の自動販売機で飲み物を購入される方が見える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、暑中見舞いなどにじみの方に出して頂くようはがきをお渡ししている。達筆で書かれる方や書けないと言われお手伝いをさせて頂く方が見える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るすぎない柔らかな照明を用いている。広くはないが食堂とリビングを兼ねたフロアで穏やかに過ごされている。トイレはご利用者の目に入らぬ位置にある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いフロアではあるが席に工夫をし個別で落ち着いて頂ける工夫をしている。ソファを置き、他者と離れて過ごしていただいている。各テーブルは、島のように個々離しており、お互いが落ち着いて頂けるよう常に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や作品、手紙などを掲示させて頂いている。寝具など馴染みの物を依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所には記銘をし、トイレには大きな字で張り紙をしている。歯磨きはご自身で収納まですされる方もみえる。		